

M. Y (男・54歳)

1年前、二次試験不合格を受け、また同じ学校に通うか、通信講座を選ぶか、それとも独学で臨むかと情報収集を進める中、MMCに出会いました。

当時の課題は3つ(と捉えていました)。①苦手な事例Ⅳの得点力アップ、②80分×4事例に対応するだけの体力と集中力アップ。③全体フレームの中での捉え直し。

答えはすべてMMCにありました。

ハッキリ言うと、MMCのすべては「学習ガイドブック」に書かれていると思います。ただし、講義を聞き、手を動かさなければ会得はできません！

「MMCって『××面』とか、書くところでしょ」。1年前、同じ某学校に通った同志から、半ば揶揄するように言われたことがありました。「ああ、表面的なことしか知られないものだな」と思います。「MMC、これぞ王道なり」。これが私の認識です。

例えば、商品紹介のウェブサイトを作成する時に「このテンプレートを使って、言った通りにつくりなさい」という感じかと思います。しかしそのウェブサイトは、見栄えだけではなく、診断士試験の本質を考え尽くした上でのものだと思います。

それがわかっていない人には「格好だけをつける練習」にしか見えないのかもしれませんが。そういう人には「結果、どのウェブサイトの商品がたくさん売れましたか？」と言いたいところです。

このことと矛盾することなく、格好をつける練習もまた大事だと付け加えておきます。

合格後、テキストや答練を整理していて出てきた1年前の答案を見て、私は驚きました。当時、それなりに書けていたと自負していたはずの答案が、なんとも酷いのです。内容以前に、読みにくい。自分が採点者だったら「そもそも読みたくない！」と思うような答案を、私は「読め！」とばかりに書いていたのだと今更ながら思い知りました。

私は50代。それなりに仕事を抱え、帰宅時間は遅く、かつ、体力の衰えを痛感せざるを得なくなり、さらにさらに、同世代の方には共感いただけるとは思いますが、“忘却力”だけは加速度的に高まっていく“お年頃”。

そんな私がやったことは、講義の復習だけです。自分としては相当勉強したつもりですが、他の皆さんの話を聞くと、とても及ばない時間量だったかもしれません。

通勤時間は添削された答案を何度も読み返していました。大切なのは自分の悪い癖を見つけて修正することだと思います。講義の後、間違えた箇所と教訓を記録し、「自分なりの解き方マニュアル」を更新し続けました。

ひたすら答練を繰り返すうちに、模範解答を誦んじることができるようになってきました。また、次の週の答練では、毎回、自分のものとした模範解答を試すことを心掛けました。おかげで「MMC流」が身体に染み付いていったのではないかと思います。

そして端と気付いたのは、問題を解いてもあまり疲れないうことです。私の課題の一つは集中力の持続だったわけですが、「集中力を高める」のではなく「集中することを抑えても解答できるようにする」というのが改善策だったわけです。

徳川先生には「頭を使って解くから疲れるんです」と、何度も言われました。それまでの模試では、必ず1事例、集中力が途切れて大事故を起こしていましたが、確かにそういうことがなくなりました。コペルニクス的発想の転換。でも確かに理にかなっている。恐るべし、MMC。

6割以上の得点が安定的に取れるようになって言われたのは、「これ以上の高得点を目指そうとしてはダメですよ」です。「それ以上のことを望むから落ちるんです」と！

先ほどのウェブサイトの制作に例えれば、「こんなキャッチコピーの方がいい」とか、「こんなデザインの方がカッコイイ」とか、果てはプログラミングの書き換えに手を出し始めてしまうと、そういうことに当たるかと思えます。

確かにそんな時間とエネルギーがあるなら、模範解答を真似ることに時間を費やした方がよいと思います。同じことをくどくど書きます。MMCの「武器」や「鉄則」は、本質を考え尽くした上で、受験生を楽にさせてくれるもの。私はそう思います。ちなみに私は仕事でも日々、使わせてもらっています。

もう一つ。苦手だった事例Ⅳについて書きます。

毎回、疲れ切った状態で解く演習問題。これも自分の課題解決に合っていると思いMMCを選んだわけですが、もっと大きな収穫がありました。

きっかけは伊藤先生のCVP分析の講義でした。「計算過程はきちんと整理して書く」ということは、以前から頭にはありましたが、実際には十分にはできていませんでした。そんな私に、伊藤先生の優しさのある丁寧な講義はすっと沁みこんで行きました。

そして自分で解いてみて、正解に辿り着ける喜びを味わいました。開眼です。

その後の諸先生によるBSとPLの説明、NPV、リアルオプション…と続くすべての講義も、目から鱗の連続。あれだけ苦手意識が強かった事例Ⅳが、俄然面白くなって行きました。

要は解けるようになったからでしょう。私は他の問題には手を出さず、答練だけを何度も解きました。これだけは深夜のカフェで、毎晩、やりました。

「とにかく手を動かすこと。電卓を叩くのも大事な練習」。その通りだと思います。特に私のような“お年頃”の方は、基本動作をしっかりと身につけることに時間を割くべきかと思います。

最後になりますが、この試験勉強を通じて最も培われたのは、実は精神力ではないかと思うのです。

これだけ学習して、チャンスは年に1回。当然に気張ってしまいますし、1年の間には調子の良い時、悪い時もあるでしょう。公私共に色々な出来事もあるでしょう。

そんな時、先生方の一言一言が支えになりました。特に徳川先生のコメントは強烈でした。曰く、「勉強なんてしなくていい」とか「×××」とか「×××」とか。（敢えて書きません!）。「そこまで言いますか」と思いつつ、しかしその意図するところが私のメンタリティを鍛えてくれました。

試験当日は美空ひばりの「柔」の一節、「勝つと思うな〜♪」が頭の中でリフレインしていました。（講義を聴けば、おわかり頂けるかと思います）。

充実した1年を送ることができました。そして無事に結実しました。講師による内容のブレがなく、それでいて、それぞれのお人柄を全面に出した授業。その雰囲気も、またよかったのだと思います。すべての講師陣、スタッフの方に心より御礼申し上げます。

有り難うございました。